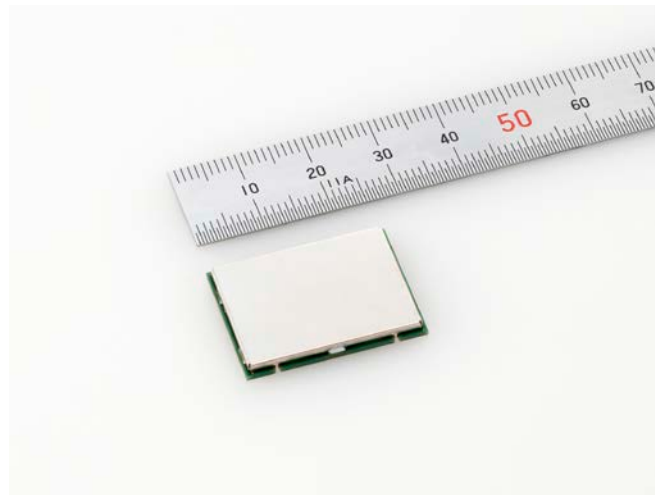


News Release

2016年7月20日

IoT 向け超低消費電力 LTE モジュールを開発

—スマートメーターや IoT センサノード、地域の見守りシステム向けに提供—



太陽誘電株式会社(代表取締役社長:登坂 正一、本社:東京都台東区、以下「太陽誘電」)は、ソフトバンク株式会社(以下「ソフトバンク」)、Altair Semiconductor(以下「アルティア」)と協力し、3GPP が定める LTE の標準化規格「Category 1」(注 1)に準拠した LTE モジュール(バンド 1、8)を開発しました。

さらにこの LTE モジュールは、最新の標準化規格「Release 13」にも対応可能で、電池駆動で 10 年以上(※1)稼働する超低消費電力化を実現できます。

太陽誘電とアルティアは、7月21日(木)、22日(金)にザ・プリンス パークタワー東京(東京都港区)で開催される「SoftBank World 2016」に共同出展します。また、21日16時30分の講演プログラム「D1-3 IT・IoT が変えていく 超産業化と暮らし」でも紹介されます。

スマートメーターをはじめ、IoT 機器は、電源の確保や省エネの観点から、消費電力の少ない無線通信が求められています。移動体通信規格の LTE は、電波の利用効率が良く、基地局など通信インフラも整っており、IoT 機器の無線通信手段の一つとして、期待が高まっています。

そこで、太陽誘電、ソフトバンク、アルティアの 3 社は、お互いの知見や技術、商品などを活かし、「Category 1」(通信速度:上り最大 5Mbps、下り最大 10Mbps)の規格に準拠した LTE モジュールを開発しました。この LTE モジュールは、最新の標準化規格である「Release 13」にも対応可能で、電池駆動で 10 年以上稼働する超低消費電力化を実現できます。

今後も、電池駆動が期待されているスマートメーターや IoT センサノード、地域の見守りシステムなど、超低消費電力を活かしたソリューションを提案します。

※1 稼働年数は、通信レスポンスや通信回数などの条件によって異なります。

<Altair Semiconductor 社(アルティア社)>

ソニー株式会社のグループ企業で、イスラエルを拠点とし、高性能で低消費電力、低コストな IoT 向け LTE モデムチップを提供。

■ 用語解説

(注1) Category 1

Category 1とは、移動体通信の標準化を行う国際プロジェクトの3GPPで策定している移動体通信の性能などを示す規定のひとつ。現在、多くの国でサービスが開始されている移動体通信規格であるLTEの一種で、上り最大5Mbps、下り最大10Mbpsの通信速度を出すことができる。